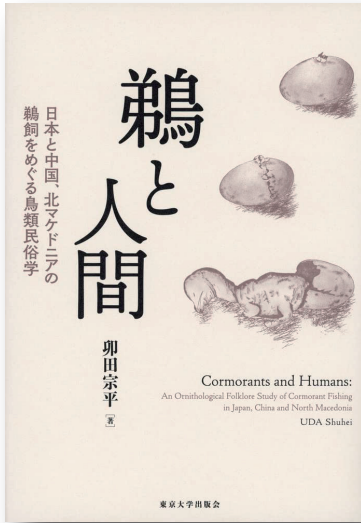


## 新収蔵資料抄



最寄り図書館に取り寄せ可

鵜と人間 日本と中国、北マケドニアの鵜飼をめぐる鳥類民俗学

Cormorants and Humans: An Ornithological Folklore Study of  
Cormorant Fishing in Japan, China and North Macedonia卯田 宗平 / 著 東京大学出版会 2021.12 本文 465p 22cm  
384.36/ ネ 1Z 2022.2.25 受入 定価 ¥11,500 + 税

## 目次

まえがき	なぜ生殖に介入しないのか	第六章	日本の鵜匠がウミウの生殖に介入しない理由 ウミウ産卵の要因をめぐる地域間比較研究
序章	いま、なぜ鵜飼なのか	第七章	なぜ中国の漁師はカワウを繁殖させるのか 中国雲南省大理ペー族自治州の洱海における繁殖技術と生殖介入の動機から
第一章	鵜飼研究の到達点 何がどこまでわかっているのか	第八章	鵜飼が生業として成りたつ条件 北マケドニア共和国ドイラン湖におけるマンドウラ漁の事例から
第二章	なぜ鵜飼が誕生したのか 野生種を飼い慣らす技術から考える鵜飼誕生の条件	終章	鵜と人間、かかわりの原理 あとがき 一点突破
第三章	前例なきウミウの産卵と鵜匠による手さぐりの応答 宇治川の鵜飼における2014年のできごとから		
第四章	ウミウの繁殖生態の変化と「技術の収斂化」 宇治川における4年間の繁殖作業を手がかりに		
第五章	野生性と扱いやすさのリバランス論 育てたウミウの個性と鵜匠による介入の強弱		

## 資料概要

ウミウやカワウを利用して魚を捕る「鵜飼」。鵜の姿は、保渡田八幡塚古墳（高崎市）出土の埴輪にも見られ、日本の鵜飼いは1300年以上の歴史を持つとされる。かつては王権や首長権のシンボルで、今も岐阜県の長良川（関市・岐阜市）の鵜匠は宮内庁職員（式部職鵜匠）である。この牧歌的にも見える漁猟は、主に観光目的ではあるが、今も山梨から大分まで、国内10を超す場所で行われている。

本書は、鵜を使った漁猟の研究に基づいて書かれた「鳥類民俗学」を標榜する研究書である。研究のための調査は、国内のほか、中国、北マケドニア共和国で行われた。

本書では、鵜の行動特性のほか、各地各国の繁殖・飼育方法や鵜匠による鵜への働きかけ、野生の鵜の捕らえ方や道具などが子細に紹介され、徹底した調査が行われたことがうかがえる。そしてその成果として、「動物利用の倫理」や「家畜化（ドメスティケーション）の要因」の新たな解釈が示されている。

今、日本の鵜飼で使われている鵜は、ウミウの季節移動のルート上にある茨城県日立市で捕らえられた野生のものである。捕獲は、春と秋、おとりを仕掛けた岸壁で行われる。日本各地の鵜匠は、自ら鳥を捕獲せずとも、必要な数を注文することで鵜を確保できる環境にある。また、鵜を使って魚を仕掛けに追い込む漁法が行われている北マケドニアのドイラン湖では、越冬のためにカワウが多く飛来する。このため漁師は必要な数の鳥を毎年捕獲し、猟期が終わると放鳥することができる。

一方、中国では人工繁殖のカワウを漁に使用している。その理由を著者は、中国ではそもそも野生のカワウを発見

することが難しく、発見できても確実に捕獲できる保証がないためと考える。

これまで、人間が特定の地域で特定の動物を家畜化するのは、「動植物の豊富さやそれに伴う発見」、「捕獲のしやすさ」が重要な要件とされていた。著者は調査の結果から、逆に「簡単に捕獲できない動物だからこそ人は繁殖に介入し、家畜化が起こる」と結論づけた。

さらに、鵜が人に懐き過ぎると漁が成立しなくなるため、漁猟時、中国では鵜に嫌悪刺激を与えている。これらの事例から、「飼い慣らす」けれども、同時に、利用に必要な行動特性を失わせないよう「飼い慣らしすぎない」というかかわり方（＝リバランス）を見いだしている。

実は本書には、今、上梓されるべき背景がある。それは京都宇治川で飼育されていた鵜の産卵（2014年）である。日本では鵜飼の鵜は卵を生まないものとされてきたため、このニュースは全国の関係者を驚かせた。宇治川の鵜匠と著者による共同研究の結果、今では産卵の契機となる条件が突き止められ、人工繁殖の道が開けている。

ウシやヤギを、いったい誰が、何時、家畜にしたのかは、私たちは知りようもない。けれども今、京都では現在進行形でウミウのドメスティケーションが行われているのである。

## 著者紹介

卯田 宗平（うだ しゅうへい）滋賀県生まれ。国立民族学博物館人類文明誌研究部准教授、博士（文学）。専門は環境民俗学、生態人類学。おもな著作に、『鵜飼いと現代中国』（東京大学出版会、2014）、『野生性と人類の論理』（編著、東京大学出版会、2021）、『アジアの環境研究入門』（東京大学出版会、2014）など。

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料（図書資料・視聴覚資料）から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。

なお、本紙の内容はWebにも掲載しています。ご覧の際は右のQRコードをご利用ください。また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。

